

明治維新150年 仙台・宮城 近代化への軌跡

— 仙台駅東部開発の歴史的意義 —



宮城大学事業構想学群
佐々木 秀之 准教授
地域創生学類
地域の資源・歴史を活かしたまちづくり、
地域ビジネス、地域コミュニティの創造に
理論と実践の両面から取り組んでいる



エフエム仙台 (Date fm)
名護 ひと美 アナウンサー
宮城県民共済ラジオ番組
「みやぎスマイルプロジェクト」担当
仙台生まれの仙台育ち

佐々木 秀之 准教授 × 名護 ひと美 アナウンサー

宮城大学事業構想学群

エフエム仙台 (Date fm)

今年、明治維新から150年。戊辰戦争（1868〜1869年）では、東北の諸藩が賊軍とされ、多くの犠牲を払いましたが、その後の東北は「富国強兵、殖産興業」を旗印に近代化への道をひた走りました。急激な近代化への動きの中で、特に仙台駅東部地域の開発は、近代国家移行への道を歩むべく重要な開発であったことは意外に知られていません。

毎週金曜日、宮城県民共済がエフエム仙台でお送りしているラジオ番組「みやぎスマイルプロジェクト」宮城の歴史さんぽ道。その特別対談第4弾として、今回は宮城大学事業構想学群地域創生学類の佐々木秀之准教授をゲストにお迎えし、明治維新から現代に至る仙台駅東部地域の開発の軌跡を振り返るとともに、未来を見据えた仙台・宮城の開発の可能性について考察します。番組のオンエアに先立ち、エフエム仙台「みやぎスマイルプロジェクト」でおなじみの名護ひと美さんをインタビュアーに、対談の一部を誌上公開します。

日本の近代化に向けた明治新政府の取り組み

名護 佐々木先生は仙台市宮城野区のご出身と伺いましたが、仙台駅東部地域の雰囲気はだいぶ様変わりしましたよね。

佐々木 そうですね。仙台駅東部地域の中でも、特に仙台駅東口地区は急激な都市化が進み、今では住みたい街のランキングに名前を連ねるようになりました。

名護 宮城大学事業構想学群では、どのような研究を行っていますか。

佐々木 私が所属する地域創生学類では、地域情報の収集に始まり、まちづくりや地域ビジネス、観光プランの計画を実際に地域に向いて、地域の皆さんと一緒に考えています。私の研究室「地域資源研究室」はこの番組のコンテナーを務めている宮原育子先生より引き継いでおり、数多くある地域資源の中から光り輝く地域資源を見出し、まちづくりに活かすための研究を行っています。

名護 本日は実際に地域の中で活動されてきた佐々木先生ならではの視点でお話しをお聞かせいただければ幸いです。さて、それでは本題に入りたいと思います。日本の近代化に向けて明治新政府が進めようとした事業は、一体どのようなも

のだったのでしょうか。

佐々木 明治新政府は「富国強兵、殖産興業」を旗印に開発を進め、日本中で急速な近代化を推し進めていきました。具体的には筑豊炭田や常磐炭鉱に代表される石炭エネルギーの確保、富岡製糸場をはじめとする製糸産業の育成、国立銀行や商法会議所の設立による地域産業の育成、国防を強化するための軍部の全国配置などがあげられます。鉄道や道路、港湾などのインフラの整備にも力を注いできました。なかでも鉄道網の整備については、私も研究テーマの一つとして取り上げていますので、のちほど詳しくお話しさせていただきます。

仙台・宮城の近代化に向けた動きとは

名護 明治維新以降、東北の開発も急ピッチに進められる中で、日本の近代化に向けた動きが仙台駅東部地域にあったといわれていますが、実際にはどのような開発が行われたのでしょうか。

佐々木 東北という視点で考えると、大久保利通（1830〜1878）が中心となつて明治11年に策定した東北の開発計画が重要で、当時は舟運が中心でしたので、現在の東松島市での野蒜築港や、既

存の新潟港の改修を通じて、東京までの舟運を切り開こうというプランがありました。東北の太平洋岸と日本海岸それぞれに舟運の拠点を設けようとしたのです。結局、野蒜築港は実現しませんでした。その理由の一つに鉄道網の整備がありました。大久保利通の開発計画の段階では鉄道敷設はあくまで調査でしたが、野蒜築港計画が破綻する明治18年頃には、物流は鉄道の時代へシフトしつつあったのです。

名護 鉄道は明治の近代化の象徴というイメージがありますね。

佐々木 明治20年に仙台に鉄道停車場がつくられたことは、仙台の都市計画を考えるうえで非常に重要です。町の中心が城から停車場へと移り変わります。地図を見ると、長町から東仙台にかけて鉄道路線が湾曲しているのがわかりますが、その理由として停車場が城下町から離れては困るという事情がありました。そこでなるべく城下町の近くに停車場を設置すべく、現在の場所に建設したわけです。ただし、出征に関して、仙台駅東部地域にある練兵所の兵士の乗り降りの場所としては不向きな場所だったため、急ぎよ陸軍専用駅として長町駅がつけられたのです。

名護 それは興味深いですね。

佐々木 鉄道が敷設されると、都市が二分され、表と裏という構図ができます。そうなる、駅の表側には飲食店や旅館が集まり、駅の裏側には工場や軍事施設、避病院などが置かれるようになります。いくなれば「富国強兵や殖産興業のためには必要な施設であるけれども、できれば身近に置きたくない施設」が裏側に配置されていったんですね。当時の仙台駅東部地区は、それほどまでに未開発の地域だったということになります。広大な用地があったからこそ、軍事や産業の拠点になり得たという側面もあります。

仙台の新たな魅力を創造する期待のエリアとして

名護 それでは最後に、今後の仙台駅東部地域の展望についてお聞かせください。

佐々木 仙台駅東部地域の再開発は、昭和35年以降、土地区画整備事業として3つの区域にわけて進められました。新寺小路地区、仙台駅東第一地区、第二地区の3区域がそうです。まずはインフラを整備しようということで道路をつくり、そこに高層ビルが建ち並ぶようになりました。仙台駅東部地域の再開発には、実に半世紀あまりもの歳月を費やしています。

名護 半世紀ですか。それはすごいですね。

佐々木 墓地の移転や町なみの大変更を伴う再開発はそう簡単ではありませんでした。そこには住民の皆さんの並々ならぬ努力があります。今も自分たちのまちをどのようになりたいのか、住民ひとりひとりがアイデアを出し合っています。例えば楽天生命パーク宮城に通じる魅力的なコミュニケーション通りへの移行や「夏まつり仙台すずめ踊り」の開催、寺社仏閣を活用したマルシェやミニコンサートの開催などがそうです。仙台駅東部地域の再開発は、今もなお現在進行形で動き続けているのです。



Book! Book! Miyagi @新寺こみち市

名護 仙台すずめ踊りは私も見に行きました。毎年盛り上がりがありますよね。

佐々木 例えば仙台駅東口から楽天生命パーク宮城へ続く道路、そのうち仙台サンプラザまでの区間は、中央分離帯が可動式になっています。これはイベントやお祭りの開催を見越したもので、当初西口で実施されていた「夏まつり仙台すずめ踊り」も仙台駅東部地域で開催されるようになりました。そこにも住民の皆さんのアイデアや工夫が活かされています。仙台駅東口地区の自治会および商工会で

は「50万人が行き来するまちづくり」をキャッチフレーズに、歴史と文化が融合するまちづくりが力強く進められています。

名護 もう裏側ではないんです。今後の仙台駅東部の役割としてはどのよう

なことが考えられますか。

佐々木 少し視点を広げて考えると、仙台駅東部という、宮城野区の蒲生地区や岡田地区などの被災地沿岸部も含まれます。仙台駅東口地区は被災地の表玄関として、そこに視察や観光客を誘致するような役割も果たせるでしょう。インバウンドを含めた交流人口の拡大は、今後ますます期待されていますからね。ポイントは震災復興を観光資源化することだと考えています。コミュニティの復興という点では、仙台駅東部地域は世界的にも注目されているエリアです。仙台らしさや東部らしさを大切に、さらに魅力ある文化を根づかせて、地域の価値を引き上げていくことが重要です。

名護 明治維新から150年。時代の変遷をしっかりと理解しながら、今度は私たちが仙台・宮城の将来の発展につながるまちづくりを考えていきたいですね。本日はありがとうございました。



特別対談の詳しい内容は

- エフエム仙台
- 10月14日(日)
- 夜7時〜7時55分

みやぎスマイルプロジェクト
「宮城の歴史さんぽ道」特別編
明治維新150年
仙台・宮城 近代化への軌跡
の中で放送します。どうぞお楽しみに。

Date fm
Sendai 77.1